

Smart Community Summit 2012



伊庭 健二氏

コーディネーター  
明星大学理工学部  
電気電子工学系教授



伊庭 これまでのスマートグリッドは電力系統網についての話だった。だが、スマートコミュニティという場合は、まちや地域のインフラづくりへと意識は変わってきている。特に発達途上国においては人口増加を吸収して生活しやすいまちをつくるというニーズがあり、日本などがどう貢献できるかがテーマとなる。また、同時にビジネスモデルを継続していきけるかも大きな課題だ。この評価には行政、銀行家、国際協力メーカ、の4つのポイントがあり、本日参加の皆さまの専門である。アズリンさんから順番にお話を伺っていきたい。

アズリン マレーシアでつなげる取り組みをいくつかに実践しており、例えばブトラジャヤでは低炭素な都市

## ICTで生活の質向上 農村部のインフラ普及急ぐ

マレーシア・グリーン・テクノロジー・コーポレーション副社長



モハメド・アズリン・モハメド・アリ氏

市、グリーンシティの研究を行っている。また最近ではスマートシティ、スマートビルディングという構想が始まった。ここでは、情報通信技術（ICT）とグリーンテクノロジーを活用して、農村部における開発と都市化、環境配慮のバランスをとっている。ICTの導入によって農村の住民はスマート技術などにアクセスできるようになり、より経済的な生活ができるようになる。グリーンであり、スマートであり、最終的には

## 「有識者が語る普及への課題」 パネルディスカッション

# 環境・情報で技術結集

アジア開発銀行（ADB）  
地域・持続的開発局長兼チーフ  
コンプライアンスオフィサー  
兼情報システム技術部長



シーサーパーシー・  
チャンドラー氏

## 分散電源対応 蓄電にEV インフラ共有化でコスト減

伊庭 各自の発表を聞いてコメントをいただきました。ところから街を作ることにするため、私たちが持つ製品をできるだけ活用しながら、陳腐化しないまっすぐに注力している。グリーン スマートグリッドを発展途上国で活用するためには、実証済みの技術を展開することその技術が非常に使い勝手がよいことが条件になる。私も直面している課題だ。伊庭 アズリンさんにお聞きしたい。スマートビルディングでの重要な要件とはどのようなものか。アズリン スマートビルディングといった場合には道路や通信インフラが必要だが、マレーシアにおいては特に農村部におけるインフラの構築が課題とな

力を進めていきたい。チャンドラー ADBはアジア太平洋地域が貧困がない地域になることを目指しており、エネルギー部門での取り組みが大半を占めている。スマートグリッドを導入するために技術の現地化をビジネスの側面で行うことが重要。『ミニ

を1カ所だけでやるのはよくない。実際は技術的な理由ではなく、政治などの理由でうまくいかないことがある。複数の事例を集め、

## 快適と持続可能 両立 企業連合で国際規格取得

伊庭 最後に竹中さんにお伺いするが、東芝では蓄電システムの最適な配置について、イメージをつかんでいるのか。竹中 結論から言うと、これは見きわめられない。蓄電池を需要家の近くに配置することはコスト的な観点だけではなく、電力系統がダウンしたときを想定して安心したときを想定して安心して使えるマインドが一般市民にも芽生えている。単にコストが低いから電力系統だけに大容量の蓄電池を設けるというところではなく、社会的、社会科学的な側面も含めた考え方を導入しないと、かえって間違っていることになりかねない。

東芝執行役常務待遇スマート  
コミュニティ事業統括部首席技監



竹中 章二氏

共通のものを見極めたうえで大規模に展開していくことが必要だ。伊庭 IRENAではどの国にどのエネルギーを供給するかの判断はどのようにしているのか。グリーン どれだけ資源に恵まれているか、どんな資源に恵まれているかが第一の基準となる。第二はコスト。なかでも水力は今日においては一番安いオプションの一つだ。また、プロジェクトの規模も重要で小規模なほうが開発しやすい。

# 導入支援へ制度拡充

国際再生可能エネルギー機関  
（IRENA）イノベーション・  
テクノロジーセンターセンター長



ドルフ・ギーレン氏

タイとして技術のメリットを理解し、自分たちの力でそれを進めていく能力を身につけなければならない。電力や公的なサービスのガバナンス、セクターの改革に生かすチャンスがある。竹中 スマートコミュニティのキーワードは「持続可能な社会」。地域単位で総合的に管理することである。東芝では個々の快速性と持続可能な街をいかに両立させるかに焦点を当てている。昨年にはスマートメーターを展開するランディス・ギアを買収したが、だがスマートメーターはあくまでも入り口でスマートイオン電池などトータルで有利な事業展開にしてい

## 好評! 日刊工業新聞社の本 今日からモノ知りシリーズ

●A5判 ●160ページ ●本文オール2色・図解 ●定価 各1,470円(税込)

## トコトンやさしい スマートコミュニティの本

独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）編著



エネルギー源の確保や、災害に強いまちづくりなどの観点から、「スマートコミュニティ」の形成が注目を浴びている。スマートコミュニティを実現するには、スマートメーターや通信機器など、目的に応じた様々な技術が必要となる。また、国や地域の特徴に応じたスタイルを形成することも重要。本書では、国内・海外で進められている実証プロジェクトを紹介しながら、スマートコミュニティの意義、関連技術についてわかりやすく解説する。

- 主な内容
- 第1章 スマートコミュニティとは
  - 第2章 スマートコミュニティを実現する方法
  - 第3章 日本におけるスマートコミュニティが目指すもの
  - 第4章 世界のスマートコミュニティに関する動向
  - 第5章 海外実証プロジェクトのねらい
  - 第6章 実現に向けた今後の課題

## トコトンやさしい 省エネの本

山川文子 著

家庭で省エネルギー（省エネ）をするのは生活者自身で、人ごとではない。本書は、省エネの基本について、暮らしの中の省エネから、省エネ対策の基本、そして省エネ普及を図る国の取り組みまでを紹介した本。省エネを考える上で大事なポイントをわかりやすく整理、省エネ普及指導、および消費生活アドバイザーの立場で、やさしく解説している。

## トコトンやさしい 太陽エネルギー発電の本

山崎耕造 著

エネルギー科学の専門家が、太陽エネルギーとそれを活用した発電のしくみを中心に、太陽エネルギーを使った発電技術を楽しくやさしく紹介する本。太陽光発電、太陽熱発電、そして未来の様々な太陽活用発電技術までを紹介。太陽エネルギー原理の基礎を学びつつ、発電技術への理解が進むようになっている。

## トコトンやさしい ヒートポンプの本

射場本忠彦 監修

ヒートポンプを使うと、大気や地中、河川、海など自然界にある熱を利用して「熱の移動」ができる。需要側でCO<sub>2</sub>をまったく排出せず、1の電力で6の熱を得ることができる環境にやさしい高効率な省エネシステムだ。本書はその基本的な仕組みと応用をやさしく解説する本。

## トコトンやさしい 2次電池の本

細田 條 著

太陽光発電や風力発電などを利用する際の電力貯蔵装置として、また電気自動車の普及・発展の鍵を握るキーテクノロジーとして2次電池が注目されている。本書は、その2次電池の歴史、しくみから、各分野での応用、リサイクルまでをわかりやすく解説、紹介する。

## トコトンやさしい 風力発電の本

牛山 泉 著

世界的に自然エネルギーの需要が増え導入数が伸びている風力発電。温暖化防止だけでなく、多くの雇用創出につながる産業として注目を集めている。この本は風力発電のメカニズムや、風車の種類と使い方を中心にやさしく紹介。

あなたの仕事に役立つ  
理工学書・ビジネス書・技術雑誌  
専門オンラインショップ Nikkan Book Store  
<http://pub.nikkan.co.jp/>

◎ご注文は書店または添付FAX申込書で  
弊社出版局販売・管理部までお申し込み下さい。

日刊工業新聞社  
●本社 出版局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1  
販売・管理部 ☎03(5644)7410 FAX03(5644)7400

## FAX申込書

お申し込みの際、複写(コピー)されたものをFAXされますようお願い致します。  
※弊社にお申し込みの方は送料を無料とさせていただきます。

〒		
ご住所:		
TEL:		
FAX:		
会社名:		
部署:	注文者名:	
日刊工業新聞社 発行	冊数	金額
トコトンやさしい スマートコミュニティの本		
トコトンやさしい 省エネの本		
トコトンやさしい 太陽エネルギー発電の本		
トコトンやさしい ヒートポンプの本		
トコトンやさしい 2次電池の本		
トコトンやさしい 風力発電の本		
合 計		